

生光学園 4連覇

第77回徳島県中学校総合体育大会（県中体連、県教委、徳島新聞社主催）が8日開幕し、第1日は軟式野球、バレーボール、卓球、柔道、サッカー、テニスの6競技の団体戦が行われた。柔道の男子は阿波が2大会連続21度目、女子は生光学園が4大会連続4度目の栄冠に輝き、四国4県で行われる全国中学校体育大会（全中、8月17～26日）への出場を決めた。柔道は徳島県で開かれるため、開催地枠として準優勝の男子・八万と女子・上板にも出場権が与えられた。卓球の男

県中学校 総合体育大会

第1日

柔道

（鳴門ソイシヨイ武道館）

【女子】団体リーグ戦 八万2
1 阿波 生光学園3-0 阿南
上板1（内容勝ち）1八万 生光
学園2-0 阿波 上板2-0 阿南
生光学園3-0 八万 阿波2-1
阿南 生光学園3-0 上板 八万
2-1 阿南 上板2-1 阿波

▽順位も生光学園4勝の上板3
勝1敗3 八万2勝2敗 阿波1勝
3敗 阿南4敗



女子団体リーグ戦・生光学園対上板 けさ固めで押さえ込む
生光学園の渋谷（上） 鳴門ソイシヨイ武道館（山田旬撮影）

一本勝ちにこだわる

生光学園

生光学園女子はリーグ戦を4戦全勝し、力の差を見せつけた。全国優勝を見据える3年生3人は果敢に攻め、一本勝ちにこだわった。

3勝して迎えた上板との事実上の決勝。先鋒（せんぽう）の岡田は相手の攻撃を封じながら隙をうかがい、開始1分半に「しっかりと組めた」と得意の一本背負いを決めた。続く小畑は冷静さが光った。激しい攻防から体落としを狙ったが決め切れないと判断すると瞬時に大外刈りに切り替えて一本。大将・渋谷は序盤に大外刈りで倒し、一気に押さえ込んだ。

昨夏の全中は惜しくも8強を逃した。以降、徳島県出身の3年生4人を中心に、今夏県内で開かれる全中で日本一なることを目標に厳しい稽古を積んできた。3月の全国高校選抜大会で3位に入った生光学園高の先輩らとも組み合せて心技体を磨いている。

試合後、山崎監督は「勝利への緊張から本来の力を出せていなかった」と手厳しかった。この日唯一引き分けた試合があった渋谷は「自分から崩しにくい気持ちを強く持たたい」と言い、小畑主将は「個々に力を磨き、全国の強豪に勝てるよう準備する」。本番まで約1カ月。チームは県外遠征を重ね、さらに一回り成長して地元での全国舞台に臨む。

（南志郎）